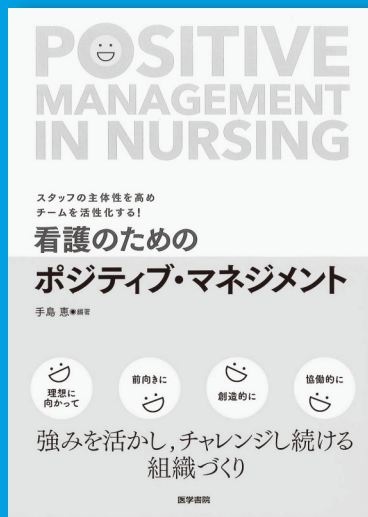


書評

スタッフの主体性を高め
チームを活性化する！
看護のための
ポジティブ・マネジメント



- 編著：手島恵
- A5判／208頁
- 定価：本体 2600円＋税
- 医学書院

評者

大阪府立大学看護学部看護管理学分野 准教授
撫養真紀子

看護管理者を元気にする、 そして看護管理が楽しくなる1冊

「ものの見方」を変える

看護管理者として、日々起こるさまざまな問題にどう対処すればいいのか、どうすればスタッフとの関係がうまくいくのか、チームをよりよい方向に導くにはどうすればいいのかと日々考えたり、悩むことが多いでしょう。そういった方に、本書は、たいへんお勧めの1冊です。

本書は「なぜものの見方が大切なのか」という根本的な問いから始まります。看護者は、仕事熱心で真面目な人が多いと言われていています。その一方で、課題や目標を立案するために、問題探しが習慣になっていることが多いのではないのでしょうか。

この問題探しはともすれば、現場や組織のあら探しになりがちです。お互いに欠点や至らなさを指摘し合っているようなものかもしれません。これを繰り返しているうちに、気持ちがうんざりし、やる気も笑顔も消えてしまいます。

このような経験をしたことはないですか？ きっと少なからずどなたにも心当たりがあることでしょう。

あら探しから 笑顔で前向きな問題解決へ

では、どうすれば、スタッフやチームとよい関係を築きながら高い目標へと導けるのでしょうか。あら探しにならず、うんざりせず、笑顔で前向きに問題解決に向かえるのでしょうか。

その解決策として本書は「ポジティブ・マネジメント」というアプローチ手法を提案してくれています。看護管理者として、自然体で明るく、楽しく、看護管理に取り組んでいける気持ちになることでしょう。

ポジティブ（前向き）な感情に注目し、ポジティブ・マネジメントの理論と

その手法を整理した上で、事例を用いてポジティブ・マネジメントがもたらす効果を丁寧に説明しています。看護管理者が組織変革を目指そうとするときに、新たなヒントを与えてくれるに違いありません。

また紹介されている実践的な手法、事例は、大変分かりやすいものです。特に、目標管理など現在行っている組織変革の手法にポジティブ・アプローチを組み合わせた事例などは、どのような現場でも応用が利くものだと思います。

看護管理者が自身の感情に 目を向ける必要性を説く

看護管理者の多くは、「感情に流されず仕事をするのが重要である」と考えていることでしょう。冷静に対処することも必要ですが、本書では、看護管理者も自分自身の感情に目を向け、対話することに重きを置いており、「感情に気づく・感情を変えるためのエクササイズ」が収められています。このエクササイズは気持ちを变えたいときやネガティブな感情を持ったとき、いつでもどこでも取り入れることができます。

また、本書は、看護管理者のための書ですが、スタッフが読んでも日々の業務の中で活用できると思います。実践的なエッセンスが豊富に織り交ぜられ、気持ちが軽くなったり、明日への活力にもなります。私自身、ポジティブ・アプローチに関心を持ち、研究として取り組んでいます。このアプローチによるスタッフの新たな成長や可能性を実感しています。

読んでいて、共感し納得できることが多く、読み終わったときには心が温くなり、元気を与えてくれる良書です。